

本太中だより

第5号

令和7年8月27日

さいたま市立本太中学校

048 (886) 4305

<http://motobuto-j.saitama-city.ed.jp>

E-mail motobuto-j@saitama-city.ed.jp

暑さと熱さの夏を越えて 当たり前にする、そして、当たりの基準を上げる

校長 田中 一秀

今年の夏も、例年に増して厳しい「暑さ」に見舞われました。7月末から8月初旬にかけては、国内の最高気温が5年ぶりに更新されたかと思えば、すぐにその記録が塗り替えられるなど、連日、猛暑に関する話題が世間を賑わせました。真夏の球宴、全国高校野球選手権大会（甲子園）でも、今大会からは暑さ対策として、2部制の拡大、夕方の試合開始、試合前ノックの選択制、審判委員の体表温測定などが導入されました。厳しい暑さは、まだ続くのでしょうか。皆さんも、十分な暑さ対策と体調管理を心がけてください。

一方で、今年の夏休みは「熱さ」にも満ちていました。県大会や県コンクールに出場した部活動の皆さんは、心を揺さぶる熱い戦いと演奏を披露してくれました。私も可能な限り会場に足を運びましたが、生徒たちの挑戦は、私自身にとっても大きな誇りです。努力を重ねてきた姿、仲間を思う気持ち、そして成長の軌跡は、何よりも尊く、素晴らしいものでした。部活動に限らず、この夏に様々なことへ挑戦した経験は、きっと皆さんの力となるはずです。2学期以降のさらなる挑戦に、大きな期待を寄せています。

さて、以前、甲子園に出場した高校の野球部監督の話を聞いたことがあります。その時、甲子園に出場するために必要なことは何かという話になりました。私は「鉄壁の投手力と守備力」「困難に負けない精神力」などを思い浮かべました。しかし、監督の答えは、「できるプレーを堅実にやる。取れるアウトを確実に取り、打てるボールをしっかり打つ。」という、私が調子抜けする意外なものでした。特別なことではなく、当たりのことを当たり前にする、そのために日々練習を積み重ねてきたというのです。確かに、試合や試験など、成果が試される場面では「いつも通りにやろう」と考えるものですし、私も子どもたちにそのように言ってきました。私は、監督の言葉から、今できることを堅実に、全力で取り組むことの大切さを改めて感じました。

さらに監督は、「その当たりの基準を、日々上げていく。」と続けました。今できることを確実にこなすだけでなく、日々の積み重ねによって「できること」を増やしていく。その積み重ねが、やがて大きな力となる。当たり前が増えていき、大きな力となる。当たりのことを確実に身に付けた者には、新たな当たり前が現れて、それを身に付けていくことの繰り返し、大きな力になるのだと思いました。

本校の生徒たちも、日々の生活の中で、家族や友人、地域の方々との関わりを通じて、例外なく成長しています。それぞれの「当たり前」が着実に増えていることは間違いありません。一人ひとりが自分の夢に向かって、積み重ねた「当たり前」を土台に、自信を持って好きなことに取り組んで欲しい。そして、自らの好奇心から問いを立て、考え、学び続けて欲しい。自分の「好き」を、心から楽しんでほしいと願っています。